

北海道浮魚ニュース

平成 29(2017)年度 21 号

2017 年 9 月 27 日

道総研 水産研究本部 釧路水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

平成 29 年オホーツク海サンマ漁況見通し発表される

北海道立総合研究機構水産研究本部釧路水産試験場・網走水産試験場および国立研究開発法人水産研究・教育機構東北区水産研究所・北海道区水産研究所が協議を行い、9月26日に「2017年(H29年)オホーツク海沿岸におけるサンマ漁況の見通し」を発表しましたので、内容をお知らせします。

【漁況見通し】

- ① 来遊量 : 昨年並で少ない
- ② 来遊時期 : オホーツク海沿岸への来遊は9月中旬から下旬以降
ただし、今年はそれ以降にずれ込む可能性あり

1. オホーツク海へのサンマの回遊 (予備知識)

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は29cm未満の0歳魚が主体で、この群は7月下旬～8月下旬に北方四島の太平洋側から移入するものと考えられています。オホーツク海に回遊したサンマは、8月～9月にはオホーツク海の中南部海域に広く分布しますが、9月以降の海水温低下に伴い、宗谷暖流域の比較的水温の高い(10℃以上)北海道沿岸域へと移動して漁獲されます。したがって、7月～8月に北方四島沖太平洋に0歳魚のサンマの分布量が多く、さらに、北方四島周辺の表面水温が好適(10℃以上)であれば、太平洋からオホーツク海への来遊量は多くなると考えられます。

2. 昨年(2016年)の漁況

2016年は、オホーツク海沿岸からの出漁はなく、太平洋からオホーツク海へさんま棒受網漁船(小型船)が回航し、羅臼沖で操業したものの、オホーツク海沿岸への水揚げはありませんでした。

3. 2017年の来遊量および来遊条件

・7月～8月の太平洋における中型・小型魚の分布量

オホーツク海に来遊する資源レベルの指標として、太平洋(千島・道東海域)におけるサンマ棒受網漁業の漁獲尾数を調べました。その結果、漁獲物のうち29cm未満魚は28%を占め、これらの推定漁獲尾数は0.17億尾と昨年の0.11億尾を上回ったものの、依然として2013年以降の低い水準が続いています。(図1)。したがって、来遊資源量は昨年並みで少ないと考えられます。

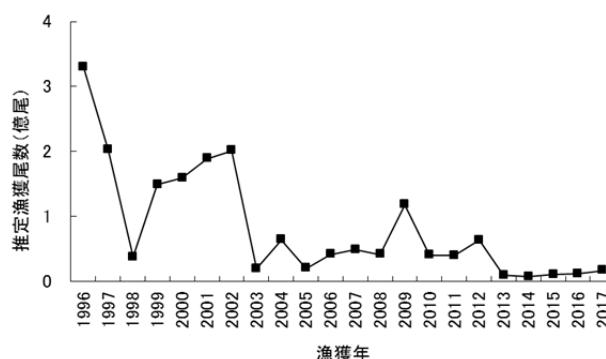


図1 太平洋海域における中型・小型サンマの推定漁獲尾数
(8月下旬まで)

・オホーツク海へ回遊する海況条件

7月下旬～8月下旬の北方四島周辺における表面水温が高い（10℃以上）年は、サンマがオホーツク海へ回遊する好適条件です。今年の7月下旬～9月上旬の北方四島海域の表面は、全域にわたって10℃以上の水温帯に覆われていました。したがって、今年の太平洋からオホーツク海へ回遊する海況条件は、好適であったと考えられます。

4. オホーツク海沿岸域への来遊時期

紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の間には、水温が17℃以上の年に限れば、水温が高い年ほど初漁日が遅くなる傾向にあります（図2）。

今年の週間平均表面水温の最高値は8月第4週の17.7℃で、昨年よりも0.7℃低い状態でした（図2）。この水温を過去の初漁日と水温の関係に照らし合わせると、今年の初漁日は9月中旬から下旬以降と推定されました。また、今年は漁場形成位置の南下が例年より遅いことから9月下旬以降にずれ込むことが予想されます。

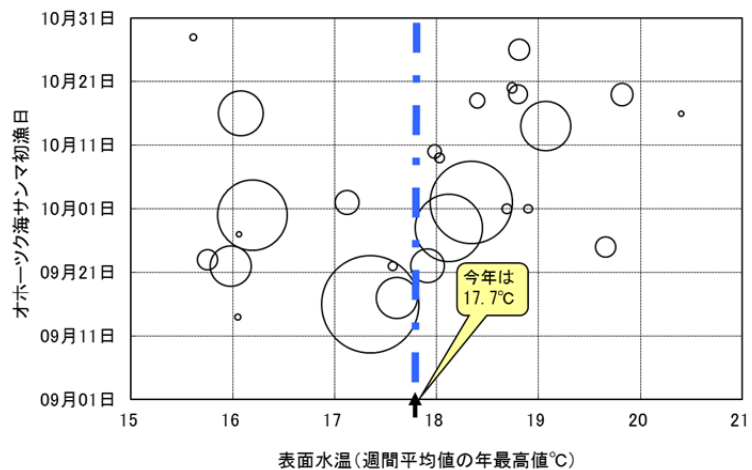


図2 紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の関係

表面水温は北緯44度～45度、東経143度～144度の海域の平均値
図中の丸は年間漁獲量の多さを相対的に示し、最も大きい丸は約2万トン

5. その他

オホーツク海への来遊資源量が十分な場合、漁獲量は太平洋から回航するさんま棒受網漁船の延べ操業隻数に左右されます。9月中旬・下旬の太平洋（千島・道東海域）の漁況が良ければ太平洋での操業を続け、逆に悪ければオホーツク海へ回航して操業する漁船が多くなる傾向があります。

しかし、2014年以降は9月中旬・下旬の太平洋の漁況が悪くてもオホーツク海へ回航しない年がありました。これは、オホーツク海への来遊資源量が低位で推移していることから、この海域での漁獲が見込まれないため太平洋の漁況に関わらず、太平洋での操業を続けていると考えられます。

今年のオホーツク海への来遊資源量は昨年並みで少ないと予想されることから、太平洋から回航する漁船は少ないと考えられます。

まとめ

今年はオホーツク海へ回遊する海況条件は好適であったものの、太平洋（千島・道東海域）における8月末までの29cm未満のサンマの推定漁獲尾数が昨年並で少ないことから、オホーツク海への来遊量は昨年並で少ないと予想されます。沿岸への来遊時期は9月中旬から下旬以降になると考えられますが、今年はそれ以降にずれ込むことが予想されます。

（釧路水産試験場調査研究部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225）